

立命館大学

国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.29-1 (通巻84号) 2021.6.28発行



Contents

01	理念・総括	
02	声明	2020年5月に米国で起きた事件に派生する人種差別問題についての声明 「核兵器禁止条約」批准国の発効条件達成を歓迎する
03~08	入館者状況・展示報告	
09~12	平和教育研究センター活動報告	
13~14	教育普及活動報告	
15	博物館資料	
16	第10回国際平和博物館会議報告	
17	2020年度活動記録	
18	リニューアルに伴う休館中のご利用案内	
19	遊心雑記	

理 念

人類は20世紀において、2度におよぶ世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし、地域紛争は今なお絶えることなく、多くの人びとが生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上ってきています。わたしたちは、紛争の原因を取りのぞき、人間の可能性が豊かに花開く平和な社会の実現に向けて努力することが求められています。

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立されました。

総 括

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から年度当初より9月下旬までの臨時休館、9月下旬より時間短縮・人数制限付きで再開したものの、1月下旬から2月末までの再度の臨時休館を行い、開館日数は106日となりました。また、年度を通じて団体見学の受入中止や、休館にともなう各種企画の中止・延期・内容の変更を余儀なくされました。そのため年間来館者数は1,996名と過年度に比して5%程度にまで落ち込むこととなりました。

そのような中でも後ほど紹介をしているとおり特別展「放射線像/Autoradiograph」、秋季特別展「CITY & PEACE南京国際平和ポスター展」、公募企画を含む5回のミニ企画展示を実施することができました。立命館大学生を対象とする教育普及事業である博物館実習は通常の夏期の受け入れに加え、他館での実習ができなかった学生を対象にした冬期の受け入れを行い、その成果をミニ企画展示に繋げるとともに、当館ホームページで公開しました。インターンシップ生の受け入れでは「巡回展示キット」の映像資料作成に取り組み、学生・大学院生に対する教育事業を当館の展示に反映させることができました。また、2021年度からの長期休館中の学内利用を目指した「巡回用展示キット」の制作も行いました。

これまで対応ができていなかった博物館資料や常設展示の紹介をホームページ上で「WEB展示」として展開し、発信することができました。各種講演会・研究会・ワークショップ等もWEB開催とすることにより、これまでより幅広い人々にも参加いただくことができ、当館のメッセージを発信することができました。

重点事業に位置付けていた「第10回国際平和博物館会議」支援の取り組みはWEB開催となりましたが、国際平和ミュージアムとしてWEB上での発表・報告・WEB展示を行い主体的に参加することができました。また全体企画のウェビナー収録支援を行うとともに、仲谷総長や館長のメッセージを全世界からの参加者にお届けすることができました。2020年版『世界における平和のための博物館』誌も第10回国際平和博物館会議・組織委員会と共同で発行しました。第2期リニューアルの取り組みについては、感染症対策に予想外の時間を要し、当初計画を半年延期することとなりましたが、1月からリニューアル企業選定や展示構成の具体化に着手することができました。

2020年度にはミュージアム声明1件および館長・名誉館長声明1件を発表しました。

- ・2020年5月に米国で起きた事件に派生する人種差別問題についての声明（2020年6月30日）
- ・「核兵器禁止条約」批准国の発効条件達成を歓迎する（2020年11月6日）



第10回国際平和博物館会議 Youth Panelの様子

2020年5月に米国で起きた事件に派生する 人種差別問題についての声明

米国のミネアポリス市で5月25日、黒人男性が白人警官に首を押さえ付けられて死亡する事件があり、映像がSNSで拡散されたこともあって、全米に抗議行動が拡大し、日本を含む諸外国においても同調デモなどが起きていることは連日の報道で知られています。抗議行動の根底には、米国における長く、深い人種差別の歴史があり、さらには、トランプ大統領の不適切な対応が火に油を注ぐことになっていると言えます。

この事案をより広く世界史の流れの中で位置づければ、人種主義、植民地主義、帝国主義によってつくられた世界秩序と国内秩序を、ひとりひとりの人間のいのちと尊厳の平等性に立脚するものにつくり直していくことを求める動きであると見ることもでき、その意味において、世界史、世界秩序のとらえ直しを迫る根源的なものであると考えられます。それは、2001年のダーバン会議（反人種主義・差別撤廃世界会議）の趣旨を具体化するものに外ならず、2020年が、1945年と同様に世界史の転換点となり得ると指摘されるのは、まさにその意味においてでしょう。

立命館大学国際平和ミュージアムは、「平和」の対置概念は「戦争」であるよりは、より広く「暴力」であると捉え、「暴力」とは「人間能力の全面開花を阻む諸原因」と理解してきました。戦争の問題は今なお平和に関わる第一級の問題に相違ありませんが、私たちは、人間のいのちと尊厳の平等性に立脚した社会正義の達成、とりわけ人権の尊重こそが何にもまして重要であるということ改めて認識し、今回の米国における事件を大いに憂慮するとともに、米国社会はもとより、世界中に残る人種差別や民族差別など、植民地主義の残滓を一掃するための新たな起点となることを願ってやみません。

本件は白人警官による黒人男性に対する違法行為に端を発したため、デモの標語に“Black lives matter”（黒人の生命は重要である）が使われていますが、差別はなにも黒人差別に限られているわけではありません。抗議行動が世界中に広がりを見せているのも、それぞれの国や地域がそれぞれの差別問題を抱えているからに外なりません。日本でも難民に対する差別事件が報道されたばかりですが、植民地主義のあらわれの1つである在日コリアンへの差別はもとより、沖縄、アイヌ、被差別部落などへの差別の問題は、まさに私たち自身の課題として提起されています。歴史的に形成され、今なお現代社会の深層に、そして、私たちの意識下に潜在する「差別」に対して私たちは真摯に向き合わなければならないでしょう。

5月25日の米国での事件は、(そもそも米国の強い関与のもとに策定された)世界人権宣言の全30ヶ条すべてに違反するものであって、とうてい認容されるべきものではなく、また、他の国際人権条約に照らしても糾弾されるべきものであります。人権問題が一国の専権事項ではなくなってきている今日、国際社会の一員としての立命館大学国際平和ミュージアムは、本事件に対する憤りを表明するとともに、トランプ大統領の暴力的な対応に対し強い抗議の意を表明します。

2020年6月30日

立命館大学国際平和ミュージアム

「核兵器禁止条約」批准国の発効条件達成を歓迎する

核兵器禁止条約の発効は、核軍縮史の画期をなすものである。

同条約は、核兵器の開発・保有・使用、使用の威嚇に加えて、核兵器使用の「援助、奨励、勧誘」をも禁止している。すなわち、非核保有国が核保有国の核兵器に依存する、いわゆる「核の傘」をも禁止しているものである。

「核兵器禁止条約は核保有国とその同盟国が加盟していないから実効性がない」という非難は、一面的である。確かに、この条約に参加していない国々が直接条約に拘束されることはないが、核兵器実戦使用の犠牲となった広島・長崎の被爆者たちの悲痛な叫びに共感した世界の市民の声を踏まえ、条約発効に必要な50か国が核兵器の全面禁止を求める条約を批准したという事実は、核兵器による威嚇やその実戦使用への誘惑に対する大きな抑止効果をもつものである。

すでに国際司法裁判所は、1996年7月8日、国家の存亡の危機に際しての核兵器による威嚇や使用については結論を留保したものの、「核兵器の威嚇または使用は武力紛争に適用される国際法の規則に一般的に違反する」との勧告的意見をとりまとめた。核兵器禁止条約は、核兵器による威嚇や使用を違法化しようとする国連加盟諸国の画期的な動きであり、われわれはこれを歓迎し、この条約に背を向けている核保有国とその同盟国が、「核兵器による安全保障政策」を転換することを求める。

とりわけ、唯一の被爆国である日本の憲法は、紛争の解決、安全の維持、平和の構築において、武力依存の極小化を要求する「平和主義」に立脚しており、アメリカの核兵器に依存して安全保障政策を構築することは日本国憲法の本質とは矛盾するものであり、「核の傘」政策の転換を要請する。日本国憲法の下にある日本の市民は、核兵器禁止条約を準備し、成立させ、発効させる上で発揮された被爆者を含む市民社会のグローバルな努力と、それに呼応して条約を批准したニュージーランド、南アフリカ、メキシコ、オーストリア等の政府との連携・共闘が求められている。

立命館大学国際平和ミュージアムは、展示やその関連企画を通じて核兵器使用の非人道的な実相に関する情報をさらに伝えるとともに、「平和のための博物館国際ネットワーク」や、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館も加盟する「日本平和博物館会議」、さらには、「平和のための博物館市民ネットワーク」とも共同して、核兵器のない世界の実現のために一層努力することを声明する。

2020年11月6日

立命館大学国際平和ミュージアム

館長 吾郷 眞一
名誉館長 安齋 育郎

2020年度入館者状況 (2020年4月～2021年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	—	—	—	—	—	3	27	23	20	9	—	24	106
入館者数	—	—	—	—	—	49	986	464	187	32	—	278	1,996
累計 (開館当初からの入館者数)													1,146,700

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年3月1日～9月27日まで、2021年1月18日～2月28日まで臨時休館を行いました。

展示報告

1 常設展

常設展示は、「一五年戦争」・「現代の戦争」(地階展示室)と「平和をもとめて」(2階展示室)の3つのテーマで展示しています。2020年4月からリニューアルした「さいころくん」の展示・活用を開始しました。4月8日から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館をしていましたが、9月28日より時間短縮・人数制限を設けて再開し、接触型展示の撤去、町家のめくり解説のパネル化、映像のループ再生を行いました。



地階展示室内「町家」

地階展示室では、「平和をみつめて」の大テーマの下に「一五年戦争」「現代の戦争」の2つのテーマを設け、日本の「一五年戦争」と「第二次世界大戦以降の戦争と平和」を中心に展示を行っています。戦争の実態を通して、平和な世界のために何をしなければならぬのかを考えます。

2階展示室では、「平和をもとめて」をテーマに、戦争や核兵器の問題だけでなく、人間が、自分の力を十分に発揮して生きることを妨げる様々な要因を考え、平和の道筋を探るための展示を行っています。また、平和をつくる主体としての市民平和活動を紹介する展示、平和をはぐむ京の人びとの展示も行っています。

2021年4月1日より、リニューアル休館に入り、展示内容も大きく更新します。

WEB展示

2020年度は臨時休館が続いたため、「ミュージアム資料」、「ミニ企画展示」、「常設展示」をWEB展示として公開しました。新しい分野での取り組みを少しずつ進めていますが、飛躍的に発達する技術や媒体を十分に活用しての展開が求められ、課題が残ります。今後、オンラインでの展示のあり方について目的を明確にし、体系的に取り組み、多様なアクセスの充実に力を入れていきたいと思います。

WEB展示URL : <https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/webexhibition/>



2 特別展

春季特別展は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い会期を延期し、9月の再開館後にKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2020のアソシエイテッド・プログラムとして開催し、多くの来場者に参観いただきました。

春季特別展では、侵華日軍南京大屠殺遇难同胞紀念館との協力により、2017、2019年に開催された南京国際平和ポスタービエンナーレの受賞作品100点を展示しました。

**2020年度特別展
KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2020
アソシエイテッドプログラム**

放射線像/Autoradiograph —放射能を可視化する—

会期：2020年9月28日(日)～11月7日(土)
主催：立命館大学国際平和ミュージアム
協力：加賀谷 雅道（映像作家）、森 敏（東京大学名誉教授）、
KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭
参観者：1,205名

東日本大震災による福島第一原子力発電所事故から約10年が経ちますが、いまだに自宅に戻れない人々、汚染水の排水、生態系の中での放射能の循環など、問題は解決できていません。本展は放射線像プロジェクトとして加賀谷雅道氏と森敏氏が福島や関東で調査や採集を行い、オートラジオグラフィの手法によって、日用品や動植物への汚染の実態を捉えた作品28点と3Dによる作品や、調査の様子を紹介しました。

来館者アンケートでは「見えないものを見せることでわかることが増える」「(見て) 見ぬフリをしていたものをつきつけられた気がします」「本展の表現は客観的かつ冷静で、深く掘ればどこまでも続く問題を美しく表現した素晴らしいアートでした」など、見学者の衝撃がうかがえました。

参観者の声

中東地域の紛争を撮影するなかで、劣化ウラン弾による汚染の唯一の可視化が先天性異常に苦しむ子ども達の姿でした。現実の悲惨さから目をそむけたくなる人が多く、伝えることの難しい問題だと感じます。本展の表現は客観的かつ冷静で、深く掘ればどこまでも続く問題を美しく表現した素晴らしいアートでした。今後のご活躍と展示企画、楽しみにしております。

愛知県 30代 社会人

横浜の空気清浄機がとくに身近に感じられ、(見て) 見ぬフリをしていたものをつきつけられた気がします。

東京都 40代 社会人

事故から約10年経過しているが、想像以上に放射性物質の影響が残っているということがはっきりとわかった。横浜や茨城など、もう安全かと数年思っていたが、まだまだなのですね。帰宅してから今日の内容を家族にもシェアしたいと思います。

大阪府 30代 社会人

立命館大学国際平和ミュージアム 2020年度特別展
放射線像/Autoradiograph



2020年9月28日(月)～11月7日(土)

開場時間 10:00～15:00 (入場は14:30まで) 休場日 日曜日、11月4日(水) 参加料公開 11月1日(火)
※観覧無料(入室券は別途販売) ※オートラジオグラフィの展示は別途有料です。

立命館大学国際平和ミュージアム 1階 中野記念ホール

入場料 大人 400円 / 中・高校生 300円 / 小学生 200円 ※学芸員観覧無料
主催：立命館大学国際平和ミュージアム
協力：映像作家 加賀谷雅道氏、東京大学名誉教授 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭
後援：京都市、京都市教育委員会、京都府教育委員会、京都府内務部地域政策推進課、KBS京都、朝日新聞社、京都新聞、毎日新聞社、NHK京都放送局

問い合わせ：0425-5872 京都府京都市中野区南1-96-1
TEL 075-465-8151 FAX 075-465-7899
URL <http://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

関連企画

オンライントーク

「放射線を可視化する方法とその意味について」

登壇者：加賀谷 雅道氏（映像作家）

日時：2020年9月26日(土)10:30～11:30

参加者：19名

オンライン講演会

「人類と放射線—私たちが気をつけるべきこと」

登壇者：安斎 育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長、工学博士）

日時：2020年10月10日(土)10:30～11:30

参加者：30名

2020年度秋季特別展
CITY&PEACE
南京国際平和ポスター展

会 期：2020年11月14日📍～12月12日📍
 主 催：立命館大学国際平和ミュージアム、
 侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館
 協 力：南京芸術学院、南京大虐殺史与国際平和研究院
 参観者：313名

本展では、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館（以下、紀念館という）で2017年および2019年に開催された「南京国際平和ポスター・ビエンナーレ」の作品から選りすぐりのポスター100点（入賞作品5点、特別作品16点、佳作作品79点）を展示しました。

開催にあたり、紀念館の代表者を交えての関連企画を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となりました。

来場者アンケートでは、「それぞれの作品に作者の思い、考えメッセージが込められていると感じた。」「世界各国の作品を集めて「平和」というテーマに対する展示は、世界の人々も平和の世界を望んでいることがすばらしい!」「ポスターを通じた（訴える力）を感じました。」などの感想が寄せられ、広く平和のメッセージを発信できたことがわかります。

また、紀念館から記念品が提供され、全来場者にマグネット、バッジやノート等を配布いたしました。



参観者の声

シンプルなデザインだからこそ、目に訴えかけるポスターが多かったです。また、同じ「PEACE」やハトをモチーフにしても、それぞれ異なる内容で平和が表現されていたのが印象的です。

大阪府 20代 大学生

本日立命館大学国際平和ミュージアムの南京国際平和ポスターを見て、すごく感動しました。私たちが今住んでいるところは戦争がないかもしれませんが、この世界は決して戦争がない世界ではありません。歴史を知る、学ぶ、そして将来は平和の世界を指して、一緒に努力しましょう。私は今、留学生として日本で核問題を研究しています。自分ができる限り、この世界に貢献したい。

P.S日本語はまだ勉強中ですから、失礼なところなどありましたら、ご理解のほどよろしくお願いします。

京都市内 20代 大学生

殺ばつとした、混とんとした不透明な時代に、心が落ちつかない日々が続いています。「戦」を語るとき、暗い色、絵などで、真実を知ることの大切さの反面、今日の展示のように、国や、言語を越えて、心がやさしくなる表現で、平和を伝えられるのはすばらしいことと思います。すばらしい施設で、本当に来て良かったです。ともすれば、つらいテーマも、優しい気持ちになれる伝え方をしていただける企画、楽しみにしています。

京都市内 50代 社会人

ポスターデザインということで、世界のどこにでも普遍的に通用するシンボリックなもの（ハトやロケットふきだし、その他のマーク等）を用いて平和を訴えていた点が面白かった。また、ポスターの中には絵で実際は動いていないのに動線が見えるもの（ex：ネジがついているハトや、卓球台など）があり、その後どうなるかと考えさせられた。面白かったです。

兵庫県 20代 大学生



3 ミニ企画展示

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い、第130回・第131回・第132回については日程を変更しての実施、第133回は当初予定していた「京都の戦争展」からテーマ及び実施方法を変更し、戦後75年特別企画としてWEB展示を実施しました。第136回は2回目の臨時休館に伴い、予定より短い会期となりました。第137回は、会期を延期し、同時開催でWEB展示を行いました。第134回は延期、第135回は中止となりました。

130回

世界一貧しい元大統領から学ぶ “本当の豊かさ”

会 期：2020年10月5日(月)～10月28日(木)

主 催：岩本 心 (立命館大学文学部4回生)



主催者の本学文学部4回生の岩本心さん(2020年度卒業)は、2019年7月、世界一周旅行中にウルグアイに滞在し、「世界一貧しい大統領」として知られるウルグアイ第40代大統領ホセ・ムヒカ氏に大統領時代のことや、今考えていることについてインタビューを行いました。

本展では、ムヒカ氏の人生を紹介するパネルや写真に加え、岩本さんによるインタビューの内容を公開しました。

ムヒカ氏は、在任当時の月給の90%を社会福祉のために寄付し、1000ドルで生活をしていました。2012年に開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」での“真の幸せは何か”を問うスピーチは多くの人の心を打ったと言われています。同氏は政治から身を引いた今でも質素な暮らしを続けています。

“本当の豊かさ”とは何か、ムヒカ氏の人生や言葉から考える機会となりました。

131回

Us～学生が見たロヒンギャ～

会 期：2020年11月2日(月)～11月26日(木)

主 催：PACO-Shed Light On Injustice



「今世紀最大の人道危機」とも言われる、ミャンマー西部・ラカイン州に住むイスラム教徒・ロヒンギャの問題。ミャンマー政府は、ベンガル地域からの「不法移民」とみなし、多くのロヒンギャに国籍を付与していません。2017年8月に起こった、原住民の仏教徒・ラカイン族との争いでは、多くのロヒンギャが迫害を受け、約70万人が隣国・バングラデシュに逃れました。ミャンマー国境では、今でも約100万人のロヒンギャが難民キャンプに暮らし、国際援助で命を繋いでいます。中には庇護を求めて日本に来るロヒンギャもいます。

「難民問題は遠い国の出来事ではない」、「難民はかわいそうな人々か」、そうした思いから、PACO-Shed Light On Injustice(※)に所属する学生記者2人(うち1人が立命館大学生)が2年をかけて、ミャンマー、バングラデシュ、マレーシア、日本の4か国取材し、その内容を写真やパネル、動画で伝えました。

※PACO-Shed Light On Injustice…ジャーナリスト志望の若者が集い、デジタルネイティブの感覚や発想をいかし、従来のメディアにないダイナミックな報道を目指す団体

132回

中国人強制連行・強制労働と 万人坑（人捨て場）

会 期：2020年12月1日🔥～12月22日🔥

主 催：平和を考え行動する会

「日中一五年戦争」時に、主に日本の民間企業によって中国本土で強制労働に従事させられた中国人は約4千万人にのぼります。そのうちの約1千万人近くが死亡し、万人坑とよばれる人捨て場に捨てられたと言われています。中には1万体系以上の遺体が捨てられた万人坑も形成されています。

今も中国各地に数多く現存している万人坑では、“証人”として被害を訴え続ける遺骨やミイラ化した遺体が保存されています。本展では、中国本土における強制連行・強制労働の苛烈な実態を写真で紹介しました。



WEB展示URL：

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/mini133/>



133回

戦後75年特別企画

ミュージアム・この1点（WEB展示）

1945年8月の敗戦から、2020年で75年が経ちました。戦争の記憶をどのように継承するかとともに、この75年間でどう考えるかが今の私たちに問われています。館長・名誉館長・学芸員・学生スタッフ・ボランティアガイドなど、当館で活動する様々な立場や世代の選定者が、それぞれの視点から資料を選び紹介しました。

「戦争資料をどのように捉えるか」、「ミュージアムにやってくる資料にはどんな背景があるのか」、「現代が抱える構造的暴力の問題とはなにか」など様々な側面から戦争と平和について向き合う視点を見出すことができます。この展示が戦後75年という月日の持つ意味について考えるきっかけとなることを願い、企画しました。また、本企画はWEB展示として公開しました。

136回

おなじ太陽のもとで

—ペルーへ日本人の移民の始まり—

会 期：2021年1月9日🔥～1月16日🔥

主 催：APEJA（日本ペルー学術協会）、
在名古屋ペルー総領事館、APJ（ペルー日系人協会）

明治時代、多くの日本人が夢を抱いて、「契約移民」（農業労働者）としてペルーへ渡りました。新たな土地で生活を始めた彼らは、現地の人々との交流のなかで多くの軋轢や苦難を経験しますが、それらを乗り越えて日系社会を築きました。日本とペルーの移民交流が始まってから120年後の現在、今度はペルー人が夢や希望を持って日本に移住し、暮らしています。本展では、「契約移民」のプロセスや、日本人移民とペルー人との交流などが、両国の関係強化に果たした役割を写真パネルで紹介しました。展示を通して、日本人や日本在住の外国人がより良い共存関係を築いていくためのヒントとなればという思いから本展を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1月16日で閉会となりました。



137回

「学徒出陣 林尹夫をさがして —1943-2021」

会 期：2021年3月1日(日)～3月27日(土)

1943年10月、在学徴集延期臨時特例の公布により、それまで徴兵が延期されていた主に文科系の大学生、高等専門学校生も軍隊へ召集されることが決定しました。京都帝国大学在学中の林尹夫(1922-1945)も「学徒出陣」をした一人でした。

当館は、彼が旧制高校から大学、海軍航空隊での訓練をへて実戦へ赴くまで記し続けた日記や家族にあてた葉書などを収蔵しています。日記からは、戦争へ駆り出された若人が何を思い、生きてきたかを知ることができます。また、立命館大学でも、休学、退学して兵役についた3,000人の学生のうち、約1,000人が帰らぬ人となりました。

本展では、尹夫が残した4冊のノートや家族、友人あてに送った葉書に加えて、立命館史資料センターの協力のもと、大学と学徒出陣にかかわる資料を展示しました。戦地に赴いた者、見送った者、残された者、それぞれの視点を通して、学徒出陣を考えるきっかけとなることを願い、開催しました。



WEB展示URL：

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/2021137mini/>



4 アウトリーチ

例年、立命館大学図書館や茨木市非核平和展への展示協力を行っていますが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部をのぞき中止となりました。

図書館 展示協力

「井戸も掘る医者—ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画—」

○ICライブラリー 2F展示室・閲覧室

会 期：2020年3月28日(土)～4月7日(火)

主 催：立命館大学図書館

協 力：立命館大学国際平和ミュージアム、ペシャワール会

2003年度 立命館大学国際平和ミュージアム特別展で使用した写真や会報、2019年12月5・6日付国内外の新聞記事、関連図書等を展示した、中村哲医師の追悼企画です。

特別展の枠組みをベースとしながらも、その後のペシャワール会の活動にも触れた展示となりました。

なお、本展は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月7日(火)で閉会となり、その後に予定していたびわこ・くさつキャンパスでの展示も中止となりました。



平和教育研究センター活動報告

立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターは、国際平和ミュージアムの活動の蓄積を踏まえ、博物館として行うべき調査研究活動をいっそう促進することを第一義としつつ、教学理念である「平和と民主主義」に基づく「大学立平和博物館」として特色のある調査研究を行い、国際平和ミュージアムの教育・研究機能の発展に貢献することを目的としています。

2020年度は、平和教育研究センター設置後4年目となりました。プロジェクト研究についてはリニューアルを念頭においた研究会の運営、国際ネットワークの進展につながる取り組みが旺盛に展開され、平和教育研究センターとしての姿が確立してきました。また引き続き各種講演会の実施、紀要の発行等の研究成果の発信にも取り組むことができました。

1 センター企画・公開講演会

講演会

オンライン講演会「感染症と私たち」

日 時：2020年8月29日 14:00～16:30

講演 I

「感染症が私たち人類に問うていること—今、求められる知性・教養—」

講 師：兵藤 友博氏 (立命館大学名誉教授)

講演 II

「感染症と近代—植民地朝鮮におけるスペイン風邪流行の歴史から」

講 師：鄭 雅英氏 (立命館大学経営学部教授)

司 会：金森 絵里氏 (立命館大学経営学部教授/立命館大学国際平和ミュージアム副館長)

講演 I では、兵藤友博氏より「感染症が私たち人類に問うていること—今、求められる知性・教養—」のテーマで講演いただきました。

ウイルスとは何かについての解説、古代都市と疫病について・都市発展や都市間交流と疫病の関係・20～21世紀の産業化の中で起きた、都市への過剰な人口集中と、第三次産業の伸長による感染症拡大の実態を紹介いただきました。

人類社会ははまだ発達途上にあり、自然界に対して謙虚でなくてはならず、21世紀に生きる私たちには、この時代に生きる人類の固有の課題があることを強調されました。

講演 II では、鄭雅英氏より「感染症と近代—植民地朝鮮におけるスペイン風邪流行の歴史から」のテーマで講演いただきました。

感染症は人類を平等に襲わず、人種や経済格差による違いが存在することを紹介されました。1918年に世界を襲った20世紀最大の感染症であるインフルエンザ、スペイン風邪が、日本の植民地地下にあった朝鮮半島にどのような影響をもたらしたのか、日本と植民地朝鮮・台湾を比較した紹介がなされました。

本講演会は、事前に130名を超える方々からお申込みいただき、常時100名を超える方々に視聴いただきました。



収録の様子

2 プロジェクト研究

平和博物館における戦争体験継承

戦争体験の無い世代がどのように戦争体験にアプローチ出来るか検討を行う。

①第10回国際平和博物館会議 (INMP 2020)

オンライン開催

会 期：2020年9月16日 14:00～9月20日 14:00

報 告：“The Future of Peace Museum Exhibitions”

兼清 順子氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員/立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)

ポスター：“A Case Study of Peace Education Through the Various Collections of the University Museum”

田 美紀氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

②9th International Biennial Conference of Museum Studies, History: Covered, Uncovering, and Catharsis (台湾芸術大学)

オンライン開催

日 程：2020年10月29日 14:00

講 演：“Communicating History Through Exhibition”

兼清 順子氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員/立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)

③「戦争博物館から戦時の社会の博物館へ、
国際比較によるアプローチ」(日仏会館)

オンライン開催

日時：2020年11月5日(木)18:30～20:30

ディスカッサント参加：兼清 順子氏

(立命館大学国際平和ミュージアム学芸員/
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)

④執筆：「平和と民主主義のもとに」

掲載出版物：編集 蘭 信三、他『なぜ戦争体験を継承するのか』
(みづき書林)

発売日：2021年2月22日

執筆者：兼清 順子氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員/
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)

④第20回メディア資料研究会

「国際平和ミュージアム所蔵資料を用いた本学学生による卒業研究報告」
オンライン開催

日時：2021年2月10日(水)17:00～18:30

報告者：根岸 明日風氏 (立命館大学映像学部四回生/
立命館大学国際平和ミュージアム学生スタッフ)
奥津 寅太郎氏 (立命館大学映像学部四回生)

参加者：23名

⑤執筆：「林尹夫関係資料群解題」

掲載出版物：責任編集 斉藤 利彦『戦没学徒 林尹夫日記(完全版)』
(三人社)

発売日：2020年7月8日

執筆者：田畷 美紀氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

博物館の資料研究 (一五年戦争セクション)

一五年戦争の実態や、その中での人々と戦争の関わり、一五年戦争がその後の社会や人々に与えた影響に関する調査研究と収蔵資料を結びつけることを目的に、収蔵資料に関わる研究会を開催して、資料の活用促進と、研究成果の蓄積・発信、研究成果と資料の結びつけを行う。

①第16回メディア資料研究会

「学徒出陣研究の到達点と資料の所在について」

—大学文書館・博物館・大学史編纂機関を中心に—

オンライン開催

日時：2020年9月24日(木)17:00～19:00

報告者：山辺 昌彦氏 (認定特定非営利活動法人 わだつみのこえ記念館 館長)

参加者：31名

②第17回メディア資料研究会

「昭和初期の和服柄に宿る戦争を展覧会を通して考える」

オンライン開催

日時：2020年9月10日(木)15:00～17:00

報告者：大高 幸氏 (放送大学客員准教授)

コメンテーター：木立 雅朗氏 (立命館大学文学部教授)

参加者：21名

③第19回メディア資料研究会

「林尹夫日記について」

対面及びオンライン開催

日時：2021年2月19日(金)17:00～19:00

報告者：田畷 美紀氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

参加者：16名



博物館の資料研究 (戦後社会セクション)

戦後社会の中で、市民が平和を求めた動きの見直しと再評価に繋がる資料収集、調査、研究、展示を行う。

①紀要『立命館平和研究』第22号への成果報告・投稿

発行日：2021年3月19日

「ファントム墜落からハンパク(反戦のための万国博)へ

—江藤俊一氏に聞く—

執筆者：番匠 健一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授/
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

自衛隊基地の地域社会史

近現代の軍隊研究を参照しつつ、変わりつつある「自衛隊」の存在から地域社会と自衛隊の関係性を考える。

①フィールドワーク・調査

能勢ナイキミサイル基地集会への参加

日程：2020年6月19日(金)

②第6回研究会

「自衛隊と社会 —地域と家族支援—」

オンライン開催

日時：2020年9月12日(土)15:00～18:00

講師：河野 仁氏 (防衛大学校教授/国際交流センター長)

コメンテーター：松田 ヒロ子氏 (神戸学院大学准教授)



③フィールドワーク・調査

日出生台軍事演習場調査

実施：2020年11月

④紀要『立命館平和研究』第22号への成果報告・投稿

発行日：2021年3月19日

「反基地運動の経験とピースデポの活動」

執筆：梅林 宏道氏 (NPO法人ピースデポ特別顧問/長崎大学客員教授)
大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授/
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)
番匠 健一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

「月刊紙『隊友』から見る1980年代の自衛隊退職者団体隊友会と自衛隊史」

執筆：津田 壮章氏 (京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程/
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー・アソシエイト)

京都・欧州人権セミナー

京都欧州人権セミナーを通じての人権問題の共同研究と国際ネットワークの構築を図る。

①「Marriage equality – legal protection of homosexual couples from the point of view of German Constitutional Law」

オンライン開催

日程：2020年11月11日🌐

講師：Prof. Dr. Birgit Daiber, LL. M. Eur. (ソウル国立大学法科大学校)

②2020年立命館大学法学部客員教授講演会

「ドイツ強制執行法における効果的な権利保護」

オンライン開催

日時：2020年11月30日🌐17:00～18:30

講師：Prof. Dr. Wolf-Dietrich Walker (ギーセン大学法学部)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

通訳：Tha-Phuong Vo氏

コメンテーター：内山 衛次氏 (関西学院大学法学部教授)

③2020年立命館大学法学部客員教授講演会

「スポーツ仲裁裁判所」

オンライン開催

日時：2020年12月14日🌐17:00～18:30

講師：Prof. Dr. Wolf-Dietrich Walker (ギーセン大学法学部)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

全体通訳：Tha-Phung VO氏

コメンテーター：清水 宏氏 (東洋大学法学部教授)

④2021年新春立命館大学特別講演会

「京都弁護士会における民事紛争と人権」

オンライン開催

日時：2021年1月12日🌐10:40～12:10

講師：日下部 和弘氏 (京都弁護士会会長)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑤国際シンポジウム

「スポーツ仲裁と人権」

オンライン開催

日時：2021年3月4日🌐17:30～19:30

講師：Prof. Dr. Wolf-Dietrich Walker (ギーセン大学法学部)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

コーディネーター：

Associate Prof. Dr. KARAIKOS Antonios (京都大学)

コメンテーター：

Prof. Dr. h.c.Ian Forrester (元欧州連合司法裁判所判事/
イギリス法廷弁護士)、ほか

⑥オンライン学術企画

「E-Justice in Taiwan」

オンライン開催

日時：2021年3月11日🌐18:00～20:00

講師：

Director Stefan Samse (社団法人コンラート・アデナウアー財団)
法の支配プログラムアジア

Prof. Dr. Chien-Liang Lee (中央研究院法律学研究所所長)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築

世界と日本の平和博物館のガイドブック、Museums for Peace Worldwideの内容更新及び国際ネットワークの構築に向けた取り組みを行う。

①第10回国際平和博物館会議 (INMP2020)

オンライン開催

会期：2020年9月16日🌐～9月20日🌐

②「平和のための博物館市民ネットワーク」全国交流会

オンライン開催

日程：2020年9月19日🌐

③「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト

オンライン証言・交流会 (京都) 」

オンライン開催

日時：2020年12月26日🌐14:00～16:00

話者：花垣 ルミ氏

④「展示：福島第1原発事故が意味するもの」制作

⑤『世界における平和のための博物館』刊行

INMPホームページで英語版・日本語版の公開

公開：2020年9月

WEB版URL：

<https://sites.google.com/view/inmp-2020/museums-for-peace-worldwide>



⑥「コロナ・ウイルス感染症拡大の平和博物館への影響」についてアンケート調査実施、結果公表

実施：2020年8月

⑦INMP通信の英語版の編集、日本語版用の翻訳・編集

附属校平和教育研究会

立命館附属校平和教育実践の交流とその高度化にむけた研究会開催、教材キットの開発および附属校平和教育実践の発信に取り組む。

①2020年度附属校平和教育研究会

オンライン開催

日程：2021年3月4日🕒

3 センター活動の発信

紀要『立命館平和研究』第22号発行

巻頭特集「基地に向き合う市民社会」

反基地運動の経験とピースデボの活動

(梅林 宏道、大野 光明、番匠 健一)

月刊紙『隊友』から見る1980年代の自衛隊退職者団体隊友会と自衛隊史 (津田 壮章)

「基地の街」の空襲記録運動——1970年代の佐世保に着目して (鈴木 裕貴)

ほか

論文 4本

調査・研究・コラム 2本

発行日：2021年3月19日

『資料研究報告』第5号

—博物館の資料研究プロジェクトの成果発信

2020年度メディア資料研究会（一五年戦争セクション・戦後社会セクション）における以下の研究会の報告と研究会資料を『資料研究報告』第5号として発行します。

第16回「学徒出陣研究の到達点と資料の所在について—大学文書館・博物館・大学史編集機関を中心に—」（山辺 昌彦）

第17回「昭和初期の和服柄に宿る戦争を展覧会を通して考える」（大高 幸）

第19回「林尹夫日記について」（田鞆 美紀）

第20回「国際平和ミュージアム所蔵資料を用いた本学学生による卒業研究報告」

報告①「学内研究における収蔵資料の活用」（根岸 明日風）

報告②「AR型ミュージアム展示システムの研究を踏まえた次世代ミュージアム展示の可能性」（奥津 寅太郎）

発行日：2021年6月18日

教育普及活動報告

2020年度の教育普及活動は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの対面での企画は中止を余儀なくされましたが、オンラインを活用した新たな取り組みを開始することができました。

教材キット・パネルの貸し出し

歴史や社会、国語、道徳等の授業を楽しく深く学ぶための教材を貸し出しています。2020年度はリニューアルした「現代（さいころくん）」キットの活用を開始しました。

- ・現代（さいころくん）キット
- ・一五年戦争（慰問袋）キット
- ・「原子力と私たちの生活」パネル

2020年度の利用状況は以下のとおりです。

	小学校	中学校	高校	その他	合計
現代（さいころくん）キット	5	0	0	0	5
一五年戦争（慰問袋）キット	0	0	0	0	0
「原子力と私たちの生活」パネル	0	0	0	0	0
合計	5	0	0	0	5

また、各種展示会で活用いただける「展示パネル」の貸出を行っています。

（ ）内の数字は2020年度の利用状況

- ・原子爆弾：広島・長崎の記録 （1）
- ・原爆と人間展 （2）
- ・沖縄戦と基地 （1）
- ・井戸も掘る医者：
ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画 （4）
- ・ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間 （3）

博物館実習

感染防止対策を徹底し、下記日程で博物館実習生を受け入れました。実習では、資料の保存管理、学芸業務に関する講義・作業、館長講義や課員による業務説明を行いました。展示制作実習では、当館のミニ企画展示「戦後75年特別企画ミュージアム・この1点」、「学徒出陣 林尹夫をさがして—1943-2021」に関連した展示を行い、WEB展示としても公開しました。

①夏期実習

日程：2020年8月21日☞、22日☞、24日☞、25日☞、27日☞、28日☞
計6日間

受入：文学部6名、映像学部3名、京都橘大学文学部1名

②補習実習：他館での実習時間不足となった本学学生対象

日程：2020年11月30日☞

受入：映像学部1名

③冬期実習：他館での実習が中止となった本学学生対象

日程：2021年1月12日☞、13日☞、14日☞、18日☞、19日☞、20日☞
計6日間

受入：文学部5名



資料調査



展示実習 パネル制作

インターンシップ、チャレンジ体験

インターンシップでは、昨年度に引き続き立命館大学大学院映像研究科から1名の大学院生を10日間受け入れ、巡回展示用のデジタルコンテンツの作成をしていただきました。

なお、例年、京都市立中学校及び、立命館中学校からチャレンジ体験（職業体験）を受け入れていましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点よりすべて中止となりました。

NGOワークショップ

2020年度は、秋学期に1回開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催はZoomで行いました。学生スタッフが、企画の検討から当日運営までを担当しました。事前打ち合わせはオンラインを活用し、例年より多くの学生スタッフが主体的に取り組むことができました。

「世界は核を禁止できるのか？」 ～私たちが出来ることを考えてみよう～

日時：2021年1月13日(水)16:20～17:50
講師：畠山 澄子氏 (国際交流NGOピースポート)

参加者からは、「核に関する現状や核兵器禁止条約について理解が進み、また参加者が主体的に考えることができる取り組みであった」「現実的ではないからという理由で諦めないでいいという言葉に希望が持てた」のほか、「Zoom開催だったので、非常に参加しやすかった」といった感想が聞かれました。



挨拶をする瀧谷吏玖不戦のつどい実行委員会委員長

第67回 不戦のつどい2020企画 in OIC (大阪いばらきキャンパス)

テーマ：「平和と民主主義」、そして学問の自由を考える～日本学術会議はどのような役割を果たしているのか～

日時：2020年12月14日(日)16:30～18:30

会場：大阪いばらきキャンパスAC338 / Zoomオンライン配信

話題提供者：松宮 孝明 (立命館大学法務研究科教授)

兵藤 友博 (立命館大学経営学部名誉教授 / 元日本学術会議会員)

司会：金森 絵里 (立命館大学経営学部教授 / 立命館大学国際平和ミュージアム副館長)

主催：不戦のつどい実行委員会 (OIC)

共催：立命館大学国際平和ミュージアム、立命館生活協同組合 OIC学生委員会、立命館大学教職員組合

菅新政権のもとで、日本学術会議が推薦した新会員候補6人が任命を拒否され、その中には立命館大学法務研究科の松宮孝明教授も含まれていました。かつてのアジア太平洋戦争時には、科学者や技術者が軍事動員されました。日本学術会議は、その反省のもとに戦争や軍事目的の科学研究を行わないことを宣言しています。

いま注目を集めている日本学術会議は、どのような役割を果たし、一般市民・学生・研究者にどのようなかわりをもつのかについて参加者とともに考えるために講演会を開催しました。

松宮先生からは日本学術会議法および日本国憲法の条文を踏まえて「学問の自由」と日本学術会議の役割についてお話しいただきました。兵藤先生からは、日本学術会議の立ち位置と経緯、その役割というテーマで、学びと研究の自由、そのシステムの独立性の重要性、政治と学術の関係についてお話しいただきました。

第67回 不戦のつどい「わだつみ像」前集会

第67回となる今年の不戦のつどい「わだつみ像」前集会は、感染症拡大防止の観点から参加者を各組織の代表のみに限定し、2020年12月8日に開催されました。(「不戦のつどい」の様子は、立命館大学放送局のYouTubeで配信されました。)

最初に司会者から「不戦の誓い」が朗読され、参加者の黙祷に続き、瀧谷吏玖不戦のつどい実行委員会委員長・学友会中央常任委員長、仲谷善雄総長より挨拶、各組織の代表者による献花が行われ、最後に木下明浩教職員組合執行委員長による閉会挨拶で終了しました。

博物館資料

資料・図書の受入（寄贈・寄託）

収蔵資料数 寄贈・購入・資料 41,527件
寄託資料 4,130件

(2021.3.31 現在)

2020年度寄贈資料

●個人・団体……………25件 534点

●主な資料群

- 奥田雀草関係資料群 京都で原爆忌全国俳句大会を創始した俳人、奥田哲良の色紙や俳誌『高原』、嵯峨野焼の茶碗など。
- 坂尻源作関係資料群 元海軍航空隊に所属、戦後は警察予備隊、自衛官を歴任した人物の日記、写真類。
- 元ドイツ総領事関連資料群 元駐日ドイツ帝国総領事のバルザー夫妻が、1945年以降の送還時に日本の知人に託した個人の日記、ドイツ国軍の軍帽など。
- 坂本正直関係資料群 宮崎県出身の画家、坂本正直の油絵、リトグラフ作品やスケッチ類、戦後、自身の従軍経験をもとに戦争被害と加害性を描いた作家活動の記録。
- 深瀬基寛関係資料群 英文学者深瀬基寛（京都大学名誉教授）の元に残されていた学徒出陣した教え子たちからの葉書類。
- 平和アピール漫画資料群 牧野圭一氏（京都精華大学名誉教授）が、1995年のフランス・中国、1998年のインド・パキスタンの核実験に対して、世界の作家に呼びかけて集まった作品群。

資料貸出・閲覧状況

貸出：5件

閲覧：36件

寄贈図書

図書（個人）……………58件 360冊

図書（団体）……………193件 739冊

合計……………251件 1,099冊

図書購入

433件（高額図書、映像資料含む）

2020年度 資料・図書などの寄贈者一覧

資料								
阿部 靖子	大野 煌子	川端 春枝	近藤 康三	清水 郁子	中川 和子	町田 千佳子	山本 哲雄	
一箭 博之	小野 房子	北井 哲	坂尻 護	津田 有里子	西村 政之助	丸内 絢子	京都国際マンガミュージアム	
池澤 程子	加茂野 淳二	古城 義洋	嶋田 数之	所 薫子	前田 三千代	矢部 恵		
図書								
赤塚 康雄	伊藤 昭	大類 善啓	清水 末子	中原 文子	藤田 明史	町田 千佳子		
赤間 亮	井上 祐子	梶原 秀明	杉本 勇	二木 崇	藤原 栄一	森 誠		
蘆田 雅子	内海 愛子	桐畑 米蔵	鈴木 ひとみ	畑 貞子	布施 英憲	森下 洋平		
安齋 育郎	鵜野 祐介	日下部 友馬	高林 實結樹	林 洋和	古橋 新	柳田 文男		
家長 福成	大塚 陽子	國森 康弘	寺内 邦夫	人見 潤介	細井 浩一	山本 哲雄		
市原 公子	大西 進	清水 郁子	長島 雄一	藤岡 惇	堀池 真一			

2020年度は、以上の方々から資料や図書などをご寄贈いただきました。お名前を記し、感謝の意を表します。

(敬称略・50音順)

また、寄贈者一覧につきましては、許可をいただいた方のみ、お名前を掲載させていただいています。

第10回国際平和博物館会議報告

第10回国際平和博物館会議は感染症拡大防止の観点からオンライン開催となりました。オンラインでの開催となりましたが、世界中から多くの発表者・参加者が集い、大きな成功を収めることができました。

第10回国際平和博物館会議支援

メインテーマ：次世代への記憶の継承と平和博物館の役割

会期：2020年9月16日(水)～9月20日(日)

主催：平和のための博物館国際ネットワーク (INMP)

共催：立命館大学、京都芸術大学、京都精華大学、池坊短期大学

プログラム：(以下のホームページで閲覧いただけます。)

<https://sites.google.com/view/inmp-2020/home#h.a4oypcxebjhx>

- ① Welcome / Opening Ceremony
- ② New Book Launch
- ③ Special Webinars
- ④ Paper Presentations (Videos)
- ⑤ General Meeting
- ⑥ Papers (Articles)
- ⑦ Panel Discussions
- ⑧ Video Exhibits
- ⑨ Poster Exhibits
- ⑩ Web Exhibitions
- ⑪ Conference Evaluation

立命館大学国際平和ミュージアムとしては、①Welcome / Opening Ceremonyへの仲谷総長挨拶、国際会議の組織委員長としての吾郷館長挨拶、国際会議の事務局長としての安斎名誉館長の挨拶、②New Book Launchとして日本語版『世界における平和のための博物館』の刊行、③Special Webinars4本の収録を行いました。また⑥Papers (Articles)、⑨Poster Exhibits、⑩Web Exhibitionsでの発表を行いました。



Welcome Speechで手品をする安斎名誉館長

2018年から3年間、「平和のための博物館国際ネットワーク」のジェネラル・コーディネータを務めましたが、最大の任務は、2020年9月に開催予定の「第10回国際平和博物館会議」を成功させることでした。設定したメイン・テーマは、戦争体験者が少なくなる中で、「次世代への記憶の継承」。新型コロナウイルス感染症の蔓延で対面型の会議は開けませんでした。オンライン会議とウェブサイトの活用は「次世代への記憶の継承」の面で新たな可能性を切り開きました。世界中のどこからでも若者たちが会議に手軽に参加できる道が開かれ、同時に開かれた「マンガ・パンデミックWEB展」の成功ともども、闇の中に光を見出した思いでした。

安斎 育郎 (INMP名誉ジェネラル・コーディネーター)



第10回国際平和博物館会議企画「マンガ・パンデミック展」投稿作品から 作：安斎 育郎氏

2020年度活動記録

特別展	9/28～11/7	特別展 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2020 アソシエイテッド・プログラム「放射線像 /Autoradiograph—放射能を可視化する—」 関連企画	1,205
	9/26	・オンライントーク「放射線を可視化する方法とその意味について」	19
	10/10	・オンライン講演会「人類と放射線—私たちが気をつけるべきこと」	30
	11/14～12/12	秋季特別展「CITY&PEACE 南京国際平和ポスター展」	313
ミニ企画展示	8/7～現在	第133回 「戦後75年特別企画 ミュージアム・この1点」(WEB展示)	—
	10/5～10/28	第130回 「世界一貧しい元大統領から学ぶ“本当の豊かさ”」	—
	11/2～11/26	第131回 「Us～学生が見たロヒンギャ～」	—
	12/1～12/22	第132回 「中国人強制連行・強制労働と万人坑(人捨て場)」	—
	1/9～1/16	第136回 「おなじ太陽のもとで—ペルーへ日本人の移民の始まり—」	—
	3/1～3/27	第137回 「学徒出陣 林尹夫をさがして—1943-2021」(2/16～現在:WEB展示)	—
イベント 講演会 その他活動	3/28～4/7	展示「井戸も掘る医者—ベジャワール会の医療活動・緑の大地計画—」(協力) 会場:OICライブラリー	—
	8/21～8/22 8/24～8/25 8/27～8/28	博物館実習(6日間)	10
	8/29～8/30	中村哲先生特別写真展～出会いと原体験～(協力) 会場:チ・カ・ホ 札幌駅前通地下広場 主催:立命館慶祥高等学校、札幌新陽高等学校	—
	8/29	平和教育研究センター企画 オンライン講演会「感染症と私たち」 講演Ⅰ「感染症が私たち人類に問うていること—今、求められる知性・教養—」 講演Ⅱ「感染症と近代—植民地朝鮮におけるスペイン風邪流行の歴史から」	—
	9/10	博物館の資料研究(一五年戦争セクション) 第17回メディア資料研究会「昭和初期の和服柄に宿る戦争を展覧会を通して考える」	20
	9/12	自衛隊基地の地域社会史 第6回研究会「自衛隊と社会—地域と家族支援—」	—
	9/12	第54回原爆忌全国俳句大会(後援)	—
	9/16～9/20	第10回国際平和博物館会議(INMP2020)(共催) WEB開催	—
	9/16～9/20	平和博物館における戦争体験継承 第10回国際平和博物館会議(INMP2020) 報告:“The Future of Peace Museum Exhibitions” ポスター:“A Case Study of Peace Education Through the Various Collections of the University Museum”	—
	9/19	3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築「平和のための博物館市民ネットワーク」全国交流会	—
	9/24	博物館の資料研究(一五年戦争セクション) 第16回メディア資料研究会「学徒出陣研究の到達点と資料の所在について—大学図書館・博物館・大学史編集機関を中心に—」	31
	10/29	平和博物館における戦争体験継承 9th International Biennial Conference of Museum Studies, History: Covered, Uncovering, and Catharsis (台湾芸術大学) 講演:“Communicating History Through Exhibition”	—
	11/5	平和博物館における戦争体験継承「戦争博物館から戦時の社会の博物館へ、国際比較によるアプローチ」(日仏会館)	—
	11/11	京都・欧州人権セミナー [Marriage equality - legal protection of homosexual couples from the point of view of German Constitutional Law]	—
	11/30	京都・欧州人権セミナー 2020年立命館大学法学部客員教授講演会「ドイツ強制執行法における効果的な権利保護」	—
	11/30	博物館実習(補習実習)	1
	12/14	第67回 不戦のつどい2020企画 in OIC 「平和と民主主義」、そして学問の自由を考える～日本学術会議はどのような役割を果たしているのか～	—
	12/14	京都・欧州人権セミナー 2020年立命館大学法学部客員教授講演会「スポーツ仲裁裁判所」	—
	12/26	3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト オンライン証言・交流会(京都)」	—
	1/12	京都・欧州人権セミナー 2021年新春立命館大学特別講演会「京都弁護士会における民事紛争と人権」	—
	1/12～1/14 1/18～1/20	博物館実習(6日間)	5
	1/13	2020年度後期NGOワークショップ「世界は核を禁止できるのか?～私たちが出来ることを考えてみよう～」	35
	2/10	博物館の資料研究(一五年戦争セクション) 第20回メディア資料研究会「国際平和ミュージアム所蔵資料を用いた本学学生による卒業研究報告」	23
	2/19	博物館の資料研究(一五年戦争セクション) 第19回メディア資料研究会「林尹夫日記について」	16
	3/1～3/27	展示「長島愛生園の人々～ハンセン病 隔離と希望～」(後援) 主催:長島愛生園歴史館	686
	3/4	京都・欧州人権セミナー 国際シンポジウム「スポーツ仲裁と人権」	—
	3/4	附属校平和教育研究会 2020年度附属校平和教育研究会	—
3/11	京都・欧州人権セミナー オンライン学術企画「E-Justice in Taiwan」	—	

※会場記載のないものは、すべて立命館大学国際平和ミュージアムもしくはオンラインにて開催

リニューアルに伴う休館中のご利用案内

立命館大学国際平和ミュージアムは1992年5月に開設して以来、2005年の第1期リニューアルを経て、110万人を超える来館者をお迎えしてきました。現在、2023年9月のリニューアル・オープンを目指して大規模なリニューアルに取り組んでいます。

今後リニューアルの概要につきましては、準備の進捗に合わせて随時紹介していきます。リニューアルの様子や休館中の活動につきましては、ホームページでも紹介していきますので、ぜひご確認ください。

リニューアルの目的

- ◆常設展示の見直し
2005年のリニューアル以降、大学をめぐる環境、国内外の平和をめぐる情勢やデジタル技術が大きく変化しているなかで、展示のあり方を見直し、展示を見る人に「なぜ」という問いを喚起し、主体的な学習へとつながる展示への見直し
- ◆設備の刷新と博物館としてのゾーニングの見直し
トイレや階段、スロープの設置といったバリアフリーを含むユニバーサルデザインへと見直し
来館者の見学動線を踏まえた博物館施設のゾーニングの見直し

リニューアルのコンセプト

- ◆戦争の記憶を共有するミュージアム
- ◆平和創造の場となるミュージアム
- ◆平和創造を支える調査研究活動の拠点となるミュージアム

休館中にご利用できるコンテンツ紹介

WEB展示

◆WEB常設展示 ～平和のために「私たちに何ができるか」を考え続けよう～

現在の常設展示の一部資料をいつでもご覧いただけるようにWEBにて公開しています。ぜひ、ご利用ください。



ポスター



狛犬



帝国国防大地図

◆ミュージアム資料

「国際平和ミュージアムだより」で紹介した資料やミュージアム関係者お薦めの資料、合計27点について解説文と関連資料を紹介しています。



※WEB展示におけるデジタルコンテンツは、今後も充実していく予定です。

教材キット・パネルの貸出

教材キット・パネルの詳細な内容や貸出手続きについては、ホームページにてご確認ください

◆教材キット

児童や生徒が、歴史や社会科などの授業を楽しく深く学ぶための教材を無料で貸出しています。



現代(さいころくん)キット

現代社会の諸問題をデータで紹介する組立て式キットです。平和な暮らしをはばむさまざまな現実を、子どもたちにも見つけるヒントをつかむことができます。



現代(さいころくん)キット

一五年戦争(慰問袋)キット

慰問袋、キャメル、書籍などの歴史資料の複製と資料解説カードが入ったキットで、戦争の実態や当時の様子を考えることができます。



一五年戦争(慰問袋)キット

原子力と私たちの生活パネル
わかりやすい解説DVDと、核兵器と原発という核エネルギーの異なる利用方法を一体に理解できるパネル6枚をセットにしたキットで、理科や社会科でエネルギー問題の未来を考えることができます。

◆展示パネル

6つのテーマの展示パネルを貸出しています。



「井戸も掘る医者:ベジャール会の医療活動・緑の大地計画」展示の様子

資料の閲覧・貸出 収蔵資料データベース Peace Archives

Peace Archivesでは収蔵する博物館資料約4万8千点(2020年現在)の詳細や画像を見ることができます。博物館資料の閲覧・貸出については事前(1週間前まで)にお問い合わせください。(閲覧・貸出は2021年11月まで)



遊心雑記

福島に「伝言館」をつくりました

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)

2021年3月11日は東北地方太平洋沖地震から10年目に当たりました。広島原爆32,000発に相当するエネルギーを発揮したこの地震は超巨大な津波を発生させ、福島第一原発の非常用電源を呑み込んで「原子力発電所に電気がない」という異常な事態を招きました。

結果として核燃料の冷却が出来なくなり、膨大な放射能を含む核燃料が溶融しただけでなく、原子炉容器の底を突き破って格納容器に噴出する「メルトスルー」を起こしました。この溶融核燃料は「デブリ」と呼ばれますが、何百何千年と発熱し続けるので冷し続ける必要があり、最終的には何とか取り出して安全に管理しないと廃炉処理は終わりません。原子力規制委員会の調査で、原子炉格納容器の底だけでなく、上蓋にも非常に高い放射能汚染があることが明らかになっているので、廃炉にはこれまで考えていた以上の困難が予想されています。

私の専門は放射線防護学なので、福島の人々の要請にこたえて70回以上も福島通いを続け、調査・相談・学習活動に取り組んできました。現地の協力者の一人が双葉郡楡葉町の浄土宗の古刹・宝鏡寺住職の早川篤雄さんと、原発問題についての二人の協力関係はもう47年になります。実は3月11日、宝鏡寺境内に早川住職と私の連名で「原発悔恨・伝言の碑」を建立したのですが、その横に写真のような「ヒロシマ・ナガサ

キ・ビキニ・フクシマ 伝言館」という2階建ての博物館を立ち上げました。目的は「核の憂いのない世界を創ろう」ということで、日本原水爆被害者団体連絡協議会、第五福竜丸展示館、立命館大学国際平和ミュージアムの協力も得て展示を調べ、福島の子供の博物館から「核なき世界を！」と発信しています。小さな博物館ですが、誰に気兼ねすることもなく最も自由に「核の脅威」について発信し、科学者と宗教者が共同する一風変わった博物館として、社会教育の一端を担っていきたいと願っています。



組織図

立命館大学
|
立命館大学国際平和ミュージアム
├ 平和教育研究センター
├ メディア・資料セクター
└ 展示セクター

運営体制

(2021年度)

館長	吾郷 眞一 (立命館大学衣笠総合研究機構教授)
副館長	市井 吉興 (立命館大学産業社会学部教授)
	金森 絵里 (立命館大学経営学部教授)
平和教育研究センター長	吾郷 眞一 (立命館大学衣笠総合研究機構教授)
平和教育研究センター 副センター長	加國 尚志 (立命館大学文学部教授)
	田中 聡 (立命館大学文学部教授)
メディア・資料セクター長	田中 聡 (立命館大学文学部教授)
展示セクター長	西林 孝浩 (立命館大学文学部教授)

立命館大学国際平和ミュージアムだより

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

第29巻 第1号 (通巻84号) 2021年6月28日発行
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



今後、特別展のご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、国際平和ミュージアム (075-465-7899) へFAX送信ください。